

# リスニング能力向上のための ディクテーションを中心とした授業実践

阪上辰也

広島大学外国語教育研究センター

## 1. はじめに

本稿の目的は、大学院生である日本人英語学習者に対して行った、ディクテーションを中心とした授業の実践報告をすることである。

ディクテーションについては、言語の運用能力を向上させるためのリスニング用タスクとして広く用いられているものであるが、授業内で利用されるだけでなく、自学自習用のタスクとして、「iKnow!」<sup>1</sup>などの英語学習サイトや、広島大学外国語教育研究センターにて運用している「KDシステム」においても、ディクテーションを行うことができる。また、このディクテーションについては、Weir (1990) や Hughes (2003) などの研究から、リスニング能力の向上に効果があることが実証されている。

そこで本稿では、中級レベルの習熟度にある学習者に対して授業内でディクテーションの活動を取り入れた授業の実践報告を行うとともに、リスニング能力が向上したかどうかを検討する。

## 2. 授業内での実践

### 2.1 学習者の習熟度

対象となる学生は、「Advanced English I」という授業の受講生27名のうち、学期初期と学期末に実施されたTOEIC IPテストを2回とも受験した大学院生23名である。2013年4月に実施したTOEIC IPテストの平均スコアは、578.9点（標準偏差は118.2）であった。取得スコアのヒストグラムを図1に示す。

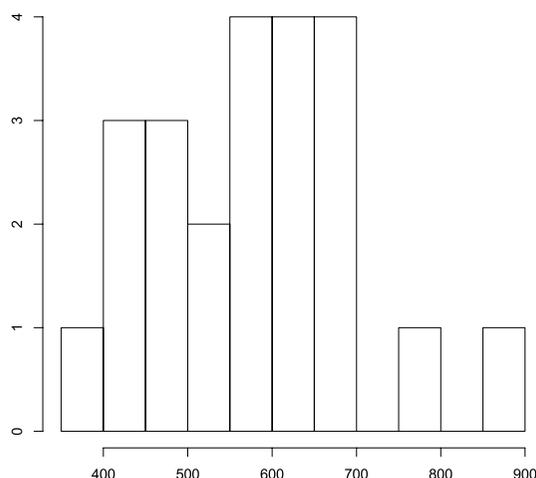


図1 2013年4月に実施したTOEIC IPテストのスコアのヒストグラム

## 2.2 Advanced English Iの授業計画

Advanced English Iの授業計画は、表1の通りである。本授業は、TOEICテストで測定されるような、成人が国際的で日常的な場面において使用する英語運用能力のうち、リスニングとリーディングに焦点を当て、様々な分野の英語運用の基盤となる能力向上を目指している。

表1 Advanced English Iの授業計画

回	主な活動内容
第1回	授業の進め方の説明, 実力診断, 等
第2回	授業の進め方の説明, 実力診断, 等
第3回	TOEIC IP テスト
第4回	小テスト (L001-072, G001-042, Ca01-a02), 演習
第5回	小テスト (L073-144, G043-084, Ca03-a04), 演習
第6回	小テスト (L145-216, G085-126, Ca05-a06), 演習
第7回	小テスト (L217-288, G127-168, Ca07-a08), 演習
第8回	小テスト (L289-360, G169-210, Ca09-a10), 演習
第9回	中間試験 (L001-360, G001-210), 演習
第10回	小テスト (L361-432, G211-252, Ca11-a12), 演習
第11回	小テスト (L433-504, G253-294, Ca13-a14), 演習
第12回	小テスト (L505-576, G295-336, Ca15-a16), 演習
第13回	小テスト (L577-648, G337-378, Ca17-a18), 演習
第14回	TOEIC IP テスト
第15回	小テスト (L649-720, G379-421, Ca19-a20)
第16回	期末試験 (L361-720, G211-421)

注：Lは「ぎゅっとe」のListening Section, GはGrammar Sectionを示す。  
Caは、「広大スタンダード語彙リスト」(合計6000語のうち2000語が対象)の範囲を示す。

授業外において、「ぎゅっとe<sup>2</sup>」というオンライン教材を使って自学自習を行い、第4回以降の授業の冒頭に、指定された範囲の小テストを行った。小テストを実施した後、読解や聴解などの演習を行う流れとなっている。この演習時に、ディクテーションタスクを取り入れた。

## 3. ディクテーション用 Web アプリケーションの利用

ディクテーションのタスクを行うために、本授業においては、Webアプリケーションを利用した。具体的には、大名力氏(名古屋大学)が開発した空欄補充問題の作成ツール(大名, 2007)を利用して作成した<sup>3</sup>。

作成の手順は簡素であり、聴かせたい音声のテキストをフォームに入力し、ボタンを押すと単語や記号類の前後に、「<=・=>」のマークがついた状態で結果が表示される(図2)。学習者に入力させたい単語はそのままにしておき、難しい単語や固有名詞のような入力が困難なものについては、そのマークを削除することで入力すべき対象から除外することができる(図3のdogmaが該当)。

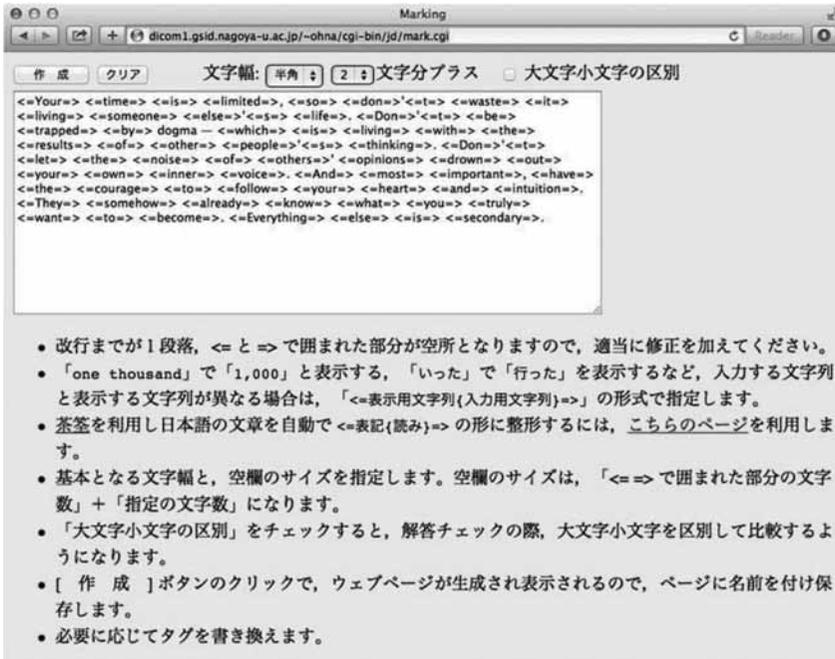


図2 ディクテーションタスクの作成画面



図3 ディクテーションタスクの利用画面

この Web アプリケーションの特徴は、JavaScript によるチェック機能のみに特化している点であり、オフラインの状態でも使用可能な点にある。正答率や誤答の記録を保持することはできないが、ページの表示が完了すれば、正答との照合処理はブラウザ上で行われるため、インターネット接続が継続されていなくても何度でも利用でき、サーバーやネットワークに負荷をかけることがなくなる。また、HTML で記述されていることから、学習者が HTML のソースを表示することで正答を得ようとするところがあるが、そうした行為を防ぐために、解答部分が簡単に読めるようにはなっていない点も特徴のひとつである。このような特徴から、本実践においてはこの Web アプリケーションを利用し、授業内での演習で継続的に使用した。

#### 4. TOEIC IP テストの結果と学生の感想

リスニング能力の向上が見られたかどうかを検討するため、2013年4月実施および同年7月実施した TOEIC IP テスト（Listening Section のみ）のスコアの散布図を図4に示す。対角線よりも左上にプロットされているものが第1回目のテストよりもスコアが上昇していたことを示す。

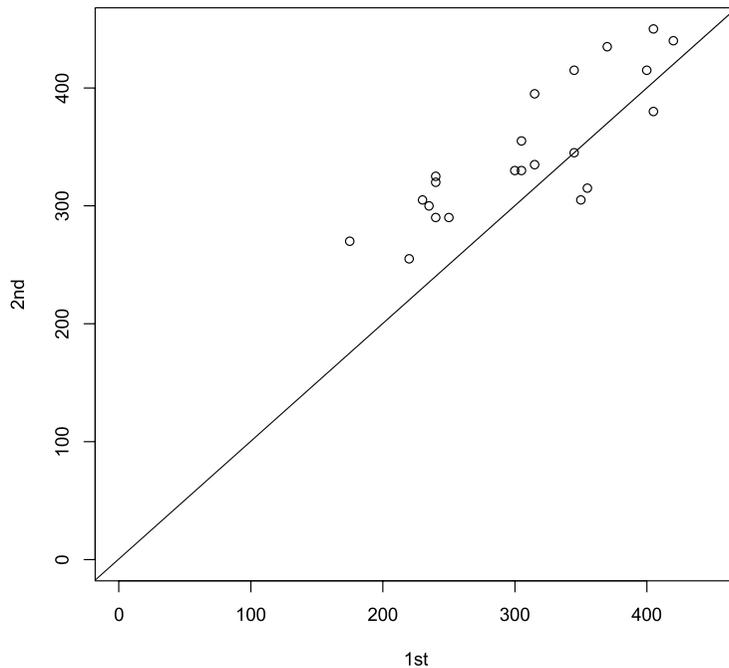


図4 2013年4月および7月実施の TOEIC IP テスト（Listening Section）のスコアの散布図

図4から、23名中18名の学習者の Listening Section のスコアが上がっていることが確認された。この得点差について、対応のある  $t$  検定により検討した。その結果、 $t(22) = 4.13$ ,  $p = .01$ ,  $r = .66$  であり、これらの平均値の差は有意であった。また、第1回目のテストと第2回目のテストのデータの相関係数は .85であった。ディクテーションを継続したことによる一定の効果が得

られたものと考えられる。

受講生から得たディクテーションタスクに関する感想として、「ディクテーションを続けることで、聴こえない音を復元できるようになった」といった好意的な感想がある一方で、「記録が保持されないで、別の機会にアクセスするとすべて空欄となっていてモチベーションが下がる」といった声もあり、ディクテーションへの取り組み方に関するさらなる助言や、正答の記録保持や誤答に対するヒント表示などの機能強化の必要性があると言えるだろう。

## 5. おわりに

本稿では、ディクテーションを中心とした授業を実施し、その実践報告を行った。具体的には、大学院生である日本人英語学習者に対して、15回に渡る授業の中で、ディクテーションタスクを与え、結果として、TOEIC IP テストのスコアが上昇し、リスニング能力の向上に一定の効果が見られた。

しかしながら、今回の学習者はディクテーションのみで英語を学んでいるわけではなく、指定されたオンライン教材の「ぎゅっとe」を利用した継続的な学習を行い、加えて、広島大学外国語教育研究センターが配信する Podcast (榎田, 2011) を聴いたりするなど、多様な形式で英語学習を行っている。したがって、ディクテーションによるトレーニングは、あくまで一要因に過ぎないため、より厳密な条件統制を行い、なおかつ、聴き取れる・聴き取れない表現には何があり、それはなぜかといった観点からの詳細な効果検証が必要となる。

## 注

- 1) 詳細は、<http://iknow.jp> を参照のこと。
- 2) 詳細は、<http://gyuto-e.jp/school/index.html> を参照のこと。
- 3) 利用方法の詳細は、<http://dicom1.gsid.nagoya-u.ac.jp/~ohna/jd/man.html> を参照のこと。
- 4) 例えば、*your* という単語は「&#121;&#111;&#117;&#114;」という数値に変換される。

## 参考文献

- 榎田一路 (2011). 「オリジナル英語学習用ポッドキャストの授業での継続的活用」『広島外国語教育研究』14, 71-82.
- Hughes, A. (2003). *Testing for language teachers* (3rd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
- 大名力 (2007). 「ウェブを利用した韓国語ディクテーション自動採点システム」『外国語教育メディア学会中部支部研究紀要』18, 11-20.
- Weir, C. (1993). *Understanding and developing language test*. New York: Prentice Hall.

## ABSTRACT

### English Dictation Practice for Improving the Ability to Listen to English

Tatsuya SAKAUE

Institute for Foreign Language Research and Education

Hiroshima University

The purpose of this paper is to report on dictation practice in the author's classroom. Dictation practice has been widely recognized as an effective classroom activity for improving the ability of listening.

In the author's classroom, a web application for dictation practice was used for intermediate-level learners. This was in the form of a website which contained sentences with blanks, which learners listened to. Students continued to work on the dictation task in the classroom. As a result of continuous practice, students' average TOEIC score in the listening section improved. However, students made an effort to improve their language skills with various practices; for example, the students memorized new words and phrases, and listened to podcasts provided by Hiroshima University. Therefore, the interaction of these practices seemed to affect TOEIC scores and language performance.